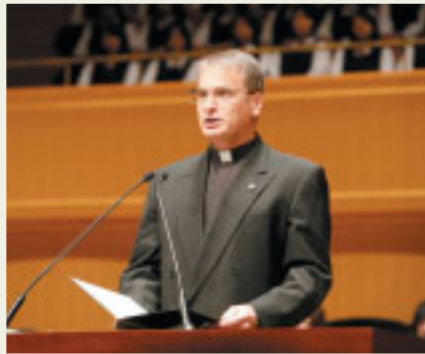


2007年は、南山学園が創立75周年を迎えるとともに、その設立母体である神言会が来日100周年を迎える記念すべき年である。この節目に、これまでの歩みに感謝し次の節目となる100周年に向けて前進する明確な方向性を確認すべく、75周年記念事業が開催された。また2008年4月には、記念事業の1つとして南山大学附属小学校(設置認可申請中)が開校する。



記念式典・コンサート



界を視野に入れた展望をもって「人を育てる」ことに励むという誓いを述べた。来賓としてご臨席いただいたローマ法王庁大使アルベルト・ポッターリ・デ・カステッロ大司教は、祝辞の中で、ローマ教皇庁が南山学園の初期の時代から積極的に援助をしてきたことを知り喜ばしく思ったこと、また、南山学園が青少年の教育に携わっていることを、カトリック教会は常に評価し感謝していると述べられた。

式典に続いて、テノール歌手井原義則氏(南山高等学校非常勤講師)、オルガニスト吉田文氏(南山大学エクステンションカレッジ講師)、同じくオルガニスト吉田徳子氏(南山短期大学教授)といった学園と深くかかわりのある方々の協力を賜わり、盛大に創立75周年記念コンサートが開催された。



ミカエル・カルマノ理事長は式辞の中で、記念式典にご参列いただいたことのお礼を述べるとともに、南山学園が、創始者であるライネルス神父が抱いた「キリストの教えは人間教育をより豊かなものにするという確信」の中でその歴史が始まったこと、そして、南山大学の初代学長を務めたアロイジオ・パッヘ神父が示した勇気の模範、元南山学園理事長アルベルト・ポルト神父が首唱した「Hominis Dignitati=人間の尊厳のために」に感謝し、今後も地域に根ざした、しかも全世

Information

2008年度学生納入金改定について - 授業料、施設設備費とも据え置きを決定

2008年度南山大学学生納入金について、2007年9月28日開催の南山学園理事会は、「入学に際しての宣誓」に示された授業料スライド制をもとに検討した結果、授業料・施設設備費とも改定率を0%といたしました。授業料改定率は、学生一人当り総経費増減率となる人事院勧告による国家公務員給与改定率を合算して算出しております。2008年度の場合、国家公務員給与改定率は0.35%となっておりますが、経済状況等を鑑み、教育・研究条件改善のための改善率を0.35%として授業料を据え置きとしました。施設設備費についても、現状で大学の施設設備取得費および維持経費増には対応可能と判断し、据え置きを決定いたしました。

【名古屋キャンパス学部学生】

授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。

【名古屋キャンパス大学院学生】

ビジネス研究科ビジネス専攻および法務研究科を除く研究科については、授業料を現行の574,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の105,000円に据え置く。

ビジネス研究科ビジネス専攻については、授業料を現行の700,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の100,000円に据え置く。

法務研究科については、授業料を現行の1,000,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の200,000円に据え置く。

【瀬戸キャンパス学部学生】

名古屋キャンパス学部学生の授業料に、総合政策学部は100,000円、数理情報学部は200,000円をそれぞれ加算して算出する。授業料を総合政策学部は現行の818,000円に、数理情報学部は現行の918,000円にそれぞれ据え置く。施設設備費は名古屋キャンパス学部学生と同額とし、両学部とも現行の210,000円に据え置く。

【瀬戸キャンパス大学院学生】

授業料を総合政策研究科は現行の624,000円(社会人学生は654,000円)に、数理情報研究科は現行の674,000円(社会人学生は734,000円)にそれぞれ据え置く。施設設備費は名古屋キャンパスのビジネス研究科ビジネス専攻および法務研究科を除く研究科と同額とし、両研究科とも現行の105,000円に据え置く。

(総務部)

南山大学・豊田工業大学連携講演会

本学と大学間連携協定を締結している豊田工業大学との第2回連携講演会が10月21日開催された。今回は統一テーマを「環境」とし、本学からは、丸山雅夫法科大学院教授/総務・将来構想担当副学長が「法制度は環境の味方になれるか?」、豊田工業大学からは、山口真史大学院工学研究科教授が「未来を拓く環境にやさしい太陽電池」と題した講演を行った。会場には、開演前早から足を運ばれ、また講演後には、数多くの質問が出るなど、「環境」への関心の高さがうかがえる講演会となった。両校は、来年度も連携講演会を実施する予定である。



講演に先立ち、会場校を代表して挨拶するマルクス学長

寄付者ご芳名

「南山大学教育・研究支援」へのご協力に感謝いたします。

南山大学同窓会 様
野村 健司 様
中川 敏雄 様
坂下 昭雄 様
山口 光大 様
足立 信彦 様
市川 五十二 様(樹木)
原山 清秀 様
石黒 範雄 様
他1名様



南山大学

発行 学長室
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
Phone: 052-832-3113(直通)
E-mail: gaku-koho@nanzan.ac.jp
http://www.nanzan-u.ac.jp/

南山大学広報誌

NANZAN bulletin vol.163 2007.12.20

特集

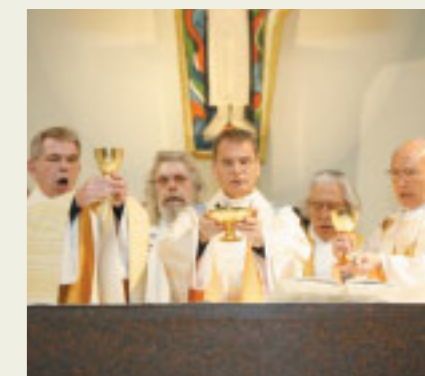
FEATURE
ARTICLE

南山学園創立75周年 記念事業



記念ミサ

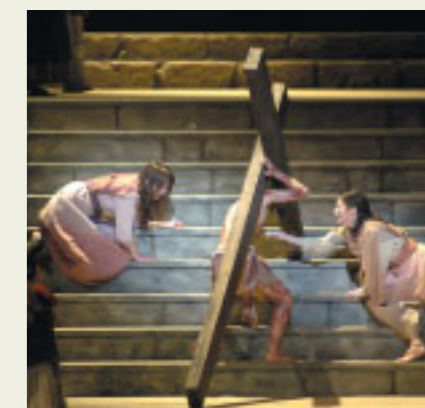
2007年11月1日、南山教会において、カトリック司祭による記念ミサが行われた。ミサには、南山学園の各学校の代表学生・生徒・教職員のほか、学園に縁のある多数の方が出席され、ヨゼフ・ライネルス神父をはじめとし、旧制南山中学校創立(1932年)から今日まで南山学園の発展にご尽力くださった先人たちへの感謝の祈りが捧げられた。



記念フェスティバル

2007年11月18日午後1時より、創立75周年記念フェスティバル宗教劇「受難」が上演された。1963年に始まり今年で41回目を迎える宗教劇「受難」は、例年南山大学初代学長の名前を冠したパッヘ・スクエアと呼ばれる屋外のグリーンエリア(名古屋キャンパス)で上演されている野外劇であるが、今年は、創立75周年記念事業の一つとして、会場を愛知県芸術劇場大ホールという大舞台に移し上演された。

そもそも野外宗教劇は、今から44年前に一学生の提案で始まったが、今や本学を代表する伝統行事となり、キリストのエルサレム入城から十字架上の死を経て復活までを、大学公認の課外活動団体「野外宗教劇」部員である学生達が



上演する。また、単に演じるだけでなく、脚本の執筆やキャスティングから、衣装、メイク、演出、それにポスターやパンフレットの製作まで、あらゆることを学生自らが担当し、その伝統は先輩から後輩に引き継がれてきている。

記念誌

2007年11月1日、南山学園創立から今日までの歴史を1冊にまとめた「HOMINIS DIGNITATI 1932-2007 南山学園創立75周年記念誌」が学園関係者の編纂のもと、刊行された。

申込方法
郵便番号、住所、氏名、電話番号、南山学園との関係(例:卒業生)を明記の上、切手450円分(郵送実費)を添えてお申込ください。
申込先
〒466-0838 名古屋市昭和区五軒家町6番地 南山学園 学園史料室
ご注意
数に限りがありますので、お早めにお申込ください。またお一人につき一部に限定させていただきます。

NANZAN UNIVERSITY

